

立候補予定者2氏座談会

詳報①

2018.1.14 曜日

任期満了に伴う延岡市長選（21日告示、28日投開票）を前に宮崎日日新聞社が開いた立候補予定者による座談会。元総務省官僚の読谷山洋司さん（53）、元県総合政策部長の永山英也さん（60）＝くじ順＝が政策や市政に対する思いを述べた。2人の発言内容を4回にわたり掲載する。

延岡市長選
告示あと7日

読谷山洋司さん（53）



よみやま・ようじ 東京大卒。1986年、自治省（現総務省）入省。内閣府参事官、岡山市副市長など歴任。会社役員。



ながやま・ひでなり 九州大卒。1981年県庁入り、畜産・口蹄疫復興対策局長、商工観光労働、総合政策部長など歴任。

永山英也さん（60）

最優先課題

読谷山 このままの延岡でいいのか、変えるのか、本気で変えるのは誰かを訴えたい。バス交通ネットワークの整備、（電力会社創設による）電気代引き下げ、水道料金値上げストップなど「安く暮らせる延岡」に変える。地場産業の支援、企業誘致、起業支援も強力に行って市民の現金収入を増やす。税金の使い道を市民生活本位に変える。そして真の人口減少対策を実現する。このことが最優先課題であり、訴えたいことだ。

永山 一番大きな課題は人口減少。消費が撤退して地域経済も低迷する。たくさん資源があるが、それを生かして何かやっていこうという躍動感、わくわく感をもっともって出さないといけない。市民には新しい市政をつくり、延岡を大きく変えていこうと訴えたい。まずは政策をしっかりと立案して実行する。市役所を組織的に動かし、さまざまな人を巻き込んで延岡のエネルギーにしていく。そういう力が必要だと思つた。

産業振興・雇用創出

永山 若い人が働きたいと思えるような良質な雇用の場をつくる必要がある。そのために高い技術力を持つ中小企業が伸び、中核的な企業に育つよう、県内初の取り組みとして産業支援機構をつくる。そこに専門家を配置してマーケティング、商品開発をしつかりサポートす

医療、子育て環境充実

読谷山さん

中小企業振興条例を制定して事業承継、商品開発等のサポートを行う。観光は、本当にいい資源を持っているので、トータルでアピールできるような日本版DMOの取り組みを進める。東九州全体の中での滞在型・リゾート型の観光地づくりを進める。企業誘致は、県とのネットワークがすごく大事だ。魅力的な第1次産業の振興プロジェクトを立ち上げ、農林漁業を生かした新しい産業構造をつくっていく。

読谷山 市発注事業は地元企業を基本とし新制度で「お試し発注」を実施する。総合商社のような仕組み「延岡経済リンクエッジ機構」をつくる。私自身が大企業などにつながるがあるの、高い価値に対してお金を払う人材の紹介も行う。企業誘致は、データセンターがある強みを生かしIT企業誘致に強力に取り組む。東九州のクロスポイント（交差点）として物流関係の誘致にも取り組む。製造業に関しても私のネットワークをフルに生かす。

起業支援は相談、資金面の応援に加え、軌道に乗るまで副業・兼業を紹介する仕組みもつくる。観光は6S（自然体験、里帰り、スポーツ、神話・観光、食、産業）に力を入れる。第1次産業は所得アップ10%を目指し、リンクエッジ機構をフルに使う。

良質な雇用の場創出

永山さん

移住・定住促進

読谷山 生活の場として延岡を選んでもらうことが必要。具体的には電気代、水道料、バス交通料金の安い「安く暮らせるまち」に変えていく。医師不足の解消を行うことで安心して暮らせるまちにすることが移住・定住促進には何より重要だ。新型病院構想で医師確保に力を入れる。「子育てするなら延岡」というまちを実現するため、教育のための機構・組織をつくる。企業、地場産業の売り上げを増やし雇用増の応援をする。観光も働く場としてもっと力強いものに変えていく。生活の場、働く場の両方を変えていくことにより移住・定住を促進していく。

永山 県庁時代、県全体を紹介し、移住を促進するためのUIJターンのセンターを東京と宮崎につくった。延岡は住みやすいし、そしてライフスタイルもいろいろな提案ができる。まずは住まい、仕事の情報発信が大切だ。県のセンターを有効活用する。Uターンは特に大事。大学進学、就職した人に対する新しいネットワークを形成し、しっかり情報が伝わるようにする。例えば「30歳の同窓会」などを開き、動きかけも進める。観光から入って、お試しがあつて移住・定住につながるよう、ステップを踏んでいく。地域住民とのコミュニケーションも市がケアしていく。

（この欄は上記の永山さんの発言を補完する内容として作成）